

中国江西省「遠航プロジェクト」について（報告）

派遣機関 江西農業大学 趙 雷 副院長・上級実験師

訪問期間 2025 年 7 月 10 日～2025 年 10 月 5 日

一、訪問の背景および目的

（一）背景

江西省科学技術協会が発出した「2024 年度『遠航プロジェクト』申請実施に関する通知」（贛科协字〔2024〕82 号）および「2024 年度『遠航プロジェクト』助成対象者の公示」に基づき、江西農業大学イノベーション・起業学院副院長であり上級実験師の趙雷氏は、江西省科学技術協会との間で締結した「2024 年度『遠航プロジェクト』契約書」の要件に従い、日本城西国際大学の招聘を受け、2025 年 7 月 10 日から 10 月 5 日まで（海外滞在 88 日間）同大学を訪問・研修を行った。

本訪問に係る費用は、江西省科学技術協会の特別資金「2024 年度『遠航プロジェクト』（9028211710）」より支出された。

（二）目的

私が主導し現在進行中の江西省教育科学計画課題「新農科の視点に基づく大学生労働教育カリキュラム品質評価体系の構築：CIPP モデルによる研究」（課題番号：23YB049）および江西省高等教育学会重点課題「産学融合の視点から見た高等教育機関におけるイノベーション・起業教育の教育改革に関する研究と実践」（課題番号：ZX5-B-002）などの研究に関連し、また「中国国際大学生イノベーション大会（国際部門）」の関連事業とも連携して、日本の高等教育機関におけるイノベーション教育・労働教育・産学連携・科学技術成果の実用化・学科競技などの取組や経験を調査・研究することを目的とした。

二、訪問の経過

1. 2025 年 7 月 10 日

午前、上海発東方航空 MU521 便（11:45－15:55）にて東京へ出国。

午後、千葉県東金市の城西国際大学に到着し、諸登録手続きを行った。

2. 7 月 11 日

午前、城西国際大学の倉林眞砂斗学長を表敬訪問。両校のこれまでの良好な協力関係を確認するとともに、今回の訪問・研修の内容について意見交換を行った。倉林学長からは、本研修活動に対する全面的な支援と協力の意向が示された。

午後には、協力教員である宮偉教授、楊沢宇教授と面談し、詳細な訪問計画を協議した。

3.7月12日～10月9日

城西国際大学、東京大学、千葉県立農業大学校、房総野生生物研究所、日本先端技術産業振興機構、高千穂交易株式会社などを訪問し、訪問目的および関連課題に基づく調査・学習を実施した。

4.10月5日

午後、東京発東方航空 MU522 便（16:55－19:15）にて上海経由で南昌へ帰国し、全行程を終了した。

三、主な成果

1. 共同競技成果

城西国際大学の3名の学生を指導し、「中国国際大学生イノベーション大会」への出場を支援した。

2. 共同研究成果

城西国際大学の宮偉教授、楊沢宇准教授と共同で、中国高校卒業生雇用協会・国際協力交流工作委员会が主催する「高等学校国際協力・交流特別研究課題」に応募した。

課題名：「応用型本科大学における国際就業の産学連携モデルに関する研究——江西農業大学を事例として」。

3. 調査成果

日本の大学・企業・研究所・専門家に対する調査結果を基に、帰国後さらに整理を行い、論文としてまとめる予定。また、「産学融合の視点から見た日中大学におけるイノベーション人材育成の比較研究」という論文を初稿として作成し、国内の省級以上の学術誌への投稿を準備中である。

4. 今後の協力拡大

(1) 城西国際大学の研究者を江西農業大学イノベーション・起業学院の競技指導者として招聘し、国際的な学術交流、人材育成を強化する。

(2) 現行課題を踏まえ、城西国際大学をはじめとする海外大学との間で、国際就業・起業における産学連携モデルの研究と協力を推進する。

(3) 私が国家級「科技小院」（永修稻・エビ科技小院）の主任専門家を務めていることを活かし、日中両国の農業科学技術分野における交流と協力の新たなプラットフォームを構築する。